

かたりべ 96

豊島区立郷土資料館だより



はみださないように… 真剣にソーマトロープに色ぬりをしています



こどもマンガ体験コーナー 親子でマンガ体験を楽しみました

マンガ家のアシスタントはタイヘンだ〜?!

郷土資料館では、企画展「トキワ荘のヒーローたち〜マンガにかけた青春〜」（会期一〇月二四日〜二月六日）の関連事業として、会期中当館のエレベーターホールに、来館した子どもたちが、マンガ家のアシスタント体験ができるワークショップ「こどもマンガ体験コーナー」を設置しました。また、十一月七日には、第二会場の区民ひろば富士見台でも、同様のワークショップを実施しました。

「こどもマンガ体験コーナー」では、(株)手塚プロダクションよりご提供いただいた鉄腕アトム、ふしぎなメルモ、ブラック・ジャック、ジャングル大帝レオの4つのテキスト用原稿に、ベタ塗り、スクリーントン貼り、Gペンを使ったペン入れなど、実際にマンガを描く作業を、郷土資料館スタッフがアドバイスをしながら、希望者に体験してもらいました。

他にソーマトロープ【円板の紙に絵を描き、両側に紐を取り付ける。紐を両側から勢いよく振り廻し、高速で紙を回転させると表と裏に描かれた画が交互に見え、あたかも動いているように見える玩具。アニメーションの原形とも言える。】を応用したぬり絵も用意し、小さなお子さんから大人まで、鉄腕アトム、火の鳥、ユニコなど6種類のキャラクターのぬり絵を楽しみました。

「こどもマンガ体験コーナー」は、文字どおり子どもを対象にしたワークショップということで企画しましたが、いざふたを開けてみると、「実はマンガ家に憧れていて…」、あるいは、「昔マンガを描いていて…」と、懐かしそうに筆をとる大人も多く、一時的に「おとなマンガ体験コーナー」となることもありました。また、お父さん、お母さんが、子どもにマンガのキャラクターについて説明し、あわせてそれぞれの思い出を語るなど、家族で楽しむ微笑ましい光景も見られました。

(岡本)

■豊島区の茄子栽培

前回は江戸の名物「駒込茄子」についてとりあげましたが、明治期以降の茄子栽培についてみると、明治五(一八七二)年(東京府志料)には長崎村一二〇〇駄・四八〇円、池袋村二〇〇〇荷・四〇〇円、

巢鴨村一五〇〇荷・三〇〇円で、長崎村は東京府で第二位、池袋村は第六位と府内有数の産地でした。明治十一年(東京府村誌)には、雑司が谷村二万個、高田村一五〇万個が生産されています。また

『北豊島郡農業志料』(明治三六年)には、長崎村の茄子は「起因詳ナラスト雖モ、販売品トシテ之ヲ栽培スルコト已ニ久シ、殊ニ本村ハ都市ニ接近セルヲ以テ販売ノ便利ヨリ年々栽培ヲ増加シ、現今尤モ隆盛ヲ極ム、形状光沢艶美ニシテ味ヒ殊ニ佳ナリ、産出最多額ニシテ将来有望ナルモノトス」とあり、味・見た目とも優れた茄子だったようです。また高田村の茄子苗について「大字雑司ヶ谷ニ産ス、起源詳ナラスト雖近來益盛大ニシテ最良質ノ苗ヲ産出ス、近郷及ヒ埼玉県北足立郡・府下南葛飾郡等へ多ク販売ス」とあり、豊島区産の茄子苗は「最良質」との

評価を得て、東京・埼玉などで広く販売されていたことがわかります。

■山茄子の特産地

豊島区産の茄子とはどのような品種だったのでしょうか。河南休男著『東京附近本場作付蔬菜の栽培』(明治四五年)に、「最も盛に栽培する地方は北豊島郡高田村、長崎村、板橋村地方、及び豊多摩郡落合村、中野町地方で、所謂東京山茄子の本場地である」と記され、豊島区域が

「東京山茄子」の特産地であったことがわかります。続いて高田村、巢鴨村字池袋、長崎村の「中生山茄子」の苗床作り、苗の移植、肥料、病虫害、収穫、採種法が詳しく紹介されており、豊島区産の「山茄子」は、その栽培法が参考とされる程の優れた品種であったといえます。

■東京産の茄子

種苗業者の全国組織である全国種子同業者連合会の機関誌『種苗世界』第一号(昭和七年)に、森健太郎氏が「東京産の茄子に就て」という興味深い記事を書いています。当時の茄子事情がわかる資料ですので、やや長文ですが紹介します。

「東京市に接続せる町村が未だ人煙稀

れなる農村の頃、東京の青物市場へ茄子を供する土地として、南葛方面で葛西村の蔓細茄、原島茄(之は現今真黒茄と称し稍長味ある尻の尖り形の早生系のもの)と砂村の丸茄(早生)であって、此の地方のものは一番早く市場に現れました。それから続いて出るのが北豊島郡の池袋、雑司ヶ谷を中心として滝野川、板橋、長崎等より出づる山茄子であります。之と殆んど時を同じうして荏原郡の目黒方面より出るのが目黒茄子と称して、漬茄子に適する良い茄子で之を晩生の真黒茄子と云ふのであります。形状は山茄子に似て尻は丸く、果皮は薄く黒い色沢の良い茄子であります。

山茄は産地であった池袋、雑司ヶ谷、滝野川、板橋、長崎方面を山の手と称した所から「山の手茄子」の意味から出た名称であって、煮茄子又は漬茄子として美味である爲め、夏季に於ける東京の需用は頗る多いのであった。而して滝野川の種子商は尻に之を販売し既に普く、其の名は全国各地に知られ今では茄子中で主位を占むるに至ったのであります。

茄子の大きさは中位で、形状は長円形

をなし、果皮は薄く紫黒色をした茄子らしい、美形であります。果肉は稍緊りあって味がよろしい。樹性は丈夫で遅く迄で成果し、頗る多産であるから、市場用として有利であり、又自家用として経済的な茄子であります。」

巢鴨の種苗問屋・榎本留吉商店の戦前のカタログや注文書類にも山茄子が頻繁に登場します。「山茄子」の全国的普及には、東京の種子屋の宣伝効果もあったと思われませんが、丈夫で多産であり、煮物・漬物にして美味しいことから、農家や消費者に大変重宝された、人気商品であったことは間違いないでしょう。(横山)



(左から) 中生山茄・真黒・蔓細千成
東京都農林総合研究センター所蔵

吹上観音の農具市へ ―旧長崎地域の農家―

資料館にはさまざまな農具が保管されています。農具は、田や畑で使用する道具で、多くは、長崎地域で農業をしてい

た家の方たちから寄贈されたものです。農具といっても多種多様なものがあります。米を脱穀する脱穀機、脱穀したものを選別する万石、また、鍬のように田畑を耕作するための道具、さらに、野菜を入れる籠も広い意味では農具のひとつといえましょう。



1. 吹上観音の農具市(和光市白子3丁目) 2002年3月10日撮影 右に下駄屋さん、左に棒屋さん、中央の遠くに刃物屋さんが出店。

では、これらの農具はどのようなにして手に入れたのでしょうか。その方法のひとつが、これから紹介する農具市(写真1)です。長崎地域では、吹上観音で開かれる農具市によく行きました。その場所は、和光市白子三丁目にあります。戦前は、歩きか自転車で行きました。そこに着くとまず天秤棒を買います。そして、籠や箆や木工品などを天秤棒につけてはあちらこちらの店で買物をしたそうです。かつては一二月にもあったようですが、現在では、三月



2. タカザル 長崎地域で使われていたもの。正面の平は、その家の所有を示す印。

の第三日曜日に行われるだけです。出店の種類と数は年々少なくなりましたが、二〇〇二年三月には、下駄屋さん、棒屋さん(鍬・飯台・臼・まな板等)、刃物屋さん(鍬、鎌、砥石等)さん、そして籠屋さんが各一軒ずつ出店していました。棒屋さんは岩槻市(当時)、刃物屋さんは北葛飾郡庄和町(当時)、籠屋さんは東村山市からきていました。戦前、刃物屋さん、自宅から大八車できました。そして、商売が終わったあとは近くの決まった家に泊まりました。馴染みのお客さんが草餅を持ってきてくれることもあったそうです。年に一度の市は、必要な農具をそろえる場であるとともに、人の出会うの場でもあり、嫁を探す嫁市とも呼ばれました。



3. 出店の籠類は車で運搬。竹製のさまざまな籠が並ぶ店先。

ところで、当館には、タカザルと呼ばれる箆があります(写真2)。これは、穀類や野菜を入れるためのものとして使ったといわれています。吹上観音の市では、この箆と同じような作りのものが売られていました(写真3)。店主によれば、豊島や練馬の人がよく買いにきたと言っていました。しかし、米の収穫高に関係してか、同じタカザルでも練馬の人のほうが大きめのものを求めていく傾向があったということです。どのような道具でも、それを作る人がいます。なかには、農家の人が自分自身で作り、修理できるものもあるでしょう。しかし、専門に作る職人がいて、使用者の利用勝手を考慮して作られてきたものであったことが、箆を通してわかりました。(福岡)

郷土資料館からのお知らせ

★二〇〇九年度冬の収蔵資料展開催

(新春一月一四日から始まりです)

■浮世絵木版画摺りの世界

浮世絵木版画は、版元・絵師・彫師・摺師の四者の協同作業で進められます。今回は摺師の道具類他を展示いたします。

■桃の節句と雛人形

区民の方からご寄贈いただいた段飾りの雛人形を展示いたします。

■ちよつとむかしの家電製品

収蔵資料のなかから、おもに一九六〇・七〇年代に製造された家電製品を展示します。

■戦中戦後の区民生活と集団学童疎開

アジア太平洋戦争中に用いた道具や

関連資料を展示するとともに、集団学童疎開先での生活について考えます。

■春の花名所めぐり

春になると、梅・桜・躑躅などが次々と開花します。ここでは、浮世絵や絵図類のなかから春の花名所に関連するものを展示いたします。

★企画展「トキワ荘のヒーローたち」関連グッズを販売しています。

企画展「トキワ荘のヒーローたち」終了後も、企画展関連グッズ《企画展図録

一五〇〇円、クリアファイル三〇〇円、ポストカード一〇〇円》は引き続き販売しております。

郷土資料館窓口にてお買い求め下さい。

区民のための

博物館用語の基礎知識

⑩ ライティング 〈英 lighting〉

博物館の展示において、展示効果を高めるために、光(照明)が果たす役割は重要である。ただし、染料・色素類の中には紫外線に弱いものが多いため、多色摺りの錦絵などを展示する際には、作品保護のために必要最小限の明るさにし、紫外線カット仕様の蛍光灯を用いることで、資料の保存についても考慮しなければならぬ。

▽用例△

学芸員A「挨拶文のところのライティングは、こんな感じで良いかなあ？」
学芸員B「ザッツ、ライト！」
学芸員A「古典的なオチだね〜。」
学芸員B「ザッツ、ライト！」
学芸員A「……。もう、ヤメテッ！」

編集後記

一二月六日までの会期で行ってきた企画展「トキワ荘のヒーローたち」は、最終日だけで七五四名(第一会場)もの来館者を迎えるなど、大盛況のうちを終了いたしました(全来館者数は六五〇四名)。また、第二会場の区民ひろば富士見台にも、会期中多くの皆さんにご来場いただきました。どうもありがとうございました。

現在、資料館スタッフは、冬の収蔵資料展開催に向けて準備をしています。企画展「トキワ荘のヒーローたち」に比べると話題性は劣りますが、個々の資料たちはそれぞれに主張しています。来年一月一四日以降、その「声」にもぜひ耳を傾けてみてください。(秋山)



かたりべ
No.96

2009年12月25日

豊島区立郷土資料館

東京都豊島区西池袋2-37-4
豊島区立勤労福祉会館7階

電話 03-3980-2351

URL: <http://www.city.toshima.lg.jp/bunka/shiryokan/>